

咬合学概論

責任者名：高津 匡樹

学期：後期

対象学年：3年

授業形式等：講義

◆担当教員

高津 匡樹(歯科補綴学 I 准教授)

伊藤 智加(歯科補綴学 I 専任講師)

浦田 健太郎(歯科補綴学 I 助教)

◆一般目標 (GIO)

歯科補綴治療において生体に調和した咬合機能の維持と回復を図るため、咬合の重要性、顎口腔系の生理機能において咬合の果たす役割、および円滑な下顎機能運動を維持するための咬合の在り方などについて知識の蓄積を図り、三次元で咬合の在り方を理解する。

◆到達目標 (SBO s)

- ①咬合の維持と回復の意義について説明できる。
- ②咬合に関与する器官とその機能について説明できる。
- ③下顎運動と下顎位について説明できる。
- ④歯の接触と咬合様式について説明できる
- ⑤咬合異常とブラキシズムについて説明できる。
- ⑥咬合器の使用目的と調整方法について説明できる。

◆評価方法

定期試験 (50%) と平常試験 (50%) にて成績評価を行う。平常試験は第 9 回および 15 回の授業時に対面にて実施する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
高津 匡樹	月曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第 I 講座	takatu.masaki@nihon-u.ac.jp	
伊藤 智加	月曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第 I 講座	itou.tomoka@nihon-u.ac.jp	
浦田 健太郎	月曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第 I 講座	urata.kenntarou@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

参考図書、講義資料に基づいて遠隔講義を行う。第9回と15回の講義は対面で実施し、平常試験とその解説を行う。

【実務経験】 高津匡樹，伊藤智加，浦田健太郎

担当教員はいずれも日本大学歯学部歯科補綴学第I講座に在籍し、咬合に関わる研究と臨床に従事している。それらの経験に基づいた講義を実施することで、より一層の理解を深めることが出来ると思う。

◆教材(教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
講義資料				
参考書	歯科技工別冊 目で見える咬合の基礎知識	古谷野潔・矢谷博文	医歯薬出版	2002
参考書	歯科補綴学専門用語集 第5版	日本補綴歯科学会編	医歯薬出版	2019
参考書	入門咬合学	古谷野潔・市来利香・築山能大	医歯薬出版	2005

◆DP・CP

DP4

コンピテンス:問題発見・解決力

コンピテンシー:自ら問題を発見し,その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

CP4

歯科医学の基礎知識を体系的に修得し,臨場的な視点で問題を解決する力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

事前に講義資料を提示するので、予習して講義に臨むこと。講義後は、講義資料やノートをまとめて復習すること。

◆準備学習時間

予習と復習をそれぞれ授業時間(50分)相当を充てて行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

歯冠補綴学，歯冠補綴学実習(3年後期)

総義歯補綴学I，部分床義歯補綴学I，部分床義歯補綴学実習I，架橋義歯補綴学，架橋義歯補綴学実習，顎機能治療学(4年前期)

総義歯補綴学II，総義歯補綴学実習，部分床義歯補綴学II，部分床義歯補綴学実習II，固定性義歯補綴学，顎機能分析学，顎機能分析演習(4年後期)

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
---	-----	----	----	------	--------	----	----------

1		8.27	6	<p>【遠隔】</p> <p>1. 咬合と顎口腔系の機能</p> <p>1) 咬合の定義</p> <p>2) 咬合と顎口腔系の機能</p> <p>3) 咬合の維持と回復の意義</p>	<p>・顎口腔系における咬合の役割を理解し、咬合の維持と回復の重要性について説明できる。</p>	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能
2		9.3	6	<p>【遠隔】</p> <p>2. 顎口腔系の構成</p> <p>1) 歯・歯列</p> <p>2) 歯周組織</p> <p>3) 骨</p>	<p>・咬合に関連する顎口腔系の各構成要素について、その形態と機能に関連づけることができる。</p>	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
3		9.10	6	<p>【遠隔】</p> <p>2. 顎口腔系の構成</p> <p>4) 顎関節</p>	<p>・咬合に関連する顎口腔系の各構成要素について、その形態と機能に関連づけることができる。</p>	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
4		9.11	6	<p>【遠隔】</p> <p>2. 顎口腔系の構成</p> <p>5) 筋</p> <p>6) 口腔粘膜</p> <p>7) 脳・神経</p>	<p>・咬合に関連する顎口腔系の各構成要素について、その形態と機能に関連づけることができる。</p>	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
5		9.17	6	<p>【遠隔】</p> <p>3. 咬合に関する基準点・基準平面</p> <p>1) 下顎運動分析に関する基準点・基準平面</p> <p>2) 咬合に関する水平基準平面</p>	<p>・下顎運動分析に用いられる基準点・基準面について説明できる。</p> <p>・歯科補綴学において重要な水平基準面を列挙し、その臨床的意義に関連づけることができる。</p>	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
6		9.24	6	<p>【遠隔】</p> <p>4. 下顎の基本運動</p>	<p>・下顎の前後、側方、開閉運動における切歯点と顎頭点の三次元的な運動経路について説明できる。</p>	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能

				1) 下顎の基本運動 2) 切歯路と顎路			E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
7		10.1	6	【遠隔】 5. 下顎の限界運動と下顎位 1) 下顎の限界運動範囲 2) 下顎位	・下顎の限界運動範囲を三次元的に説明できる ・代表的な下顎位とその臨床的意義を関連づけることができる。	伊藤 智加	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
8		10.15	6	【遠隔】 6. 下顎の機能運動 1) 咀嚼運動 2) 嚥下時の下顎運動と下顎位 3) 発音時の下顎運動と下顎位	・咀嚼運動の特徴について説明できる。 ・嚥下および発音時の下顎位について、その臨床的意義と関連づけて説明できる。	伊藤 智加	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
9		10.20	4	【対面】 ・「平常試験1」 ・平常試験の解説 ※水曜日(10/20)	・第1～8回の授業内容を確認するとともに、理解度を深めることができる。	高津 匡樹 伊藤 智加	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
10		10.29	6	【遠隔】 7. 咬合接触 1) 歯の形態と機能 2) 咬頭嵌合位における咬合接触	・機能咬頭、非機能咬頭および被蓋関係について、下顎運動と関連づけて説明できる。 ・咬頭嵌合位における咬合接触について説明できる。	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能
11		11.5	6	【遠隔】 7. 咬合接触 3) 偏心位における咬合接触(咬合様式)	・偏心位における咬合接触(咬合様式)を、有歯顎および無歯顎に分類できる。	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能
12		11.12	6	【遠隔】 8. 咬合異常とブラキシズム 1) 正常咬合と咬合	・正常有歯顎者における咬合の特徴を説明できる。 ・咬合異常やブラキシズムが、顎口腔系にもたらす障害について説明で	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能

				異常 2) ブラキシズム 3) 咬合異常とブラキシズムによる障害	きる。		
13		11.19	6	【遠隔】 9. 咬合器 1) 咬合器の使用目的 2) 咬合器の種類	・咬合器の使用目的について説明できる。 ・調節機構と構造に基づいて咬合器を分類できる。	浦田 健太郎	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
14		11.26	6	【遠隔】 9. 咬合器 3) 模型の装着 4) 咬合器の調節	・咬合器への模型の装着および咬合器の調節方法について説明できる。	浦田 健太郎	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-3-4)-(2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）
15		12.1	4	【対面】 ・「平常試験2」 ・平常試験の解説 ※水曜日（12/1）	・第10～14回の授業内容を確認するとともに、理解度を深めることができる。	高津 匡樹 浦田 健太郎	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療 E-3-4)-(2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）

